

JIS A 6021適合

速硬化 ハルエース コート ONE

改質(ゴム)アスファルト系塗膜防水材

防水

Vol.4

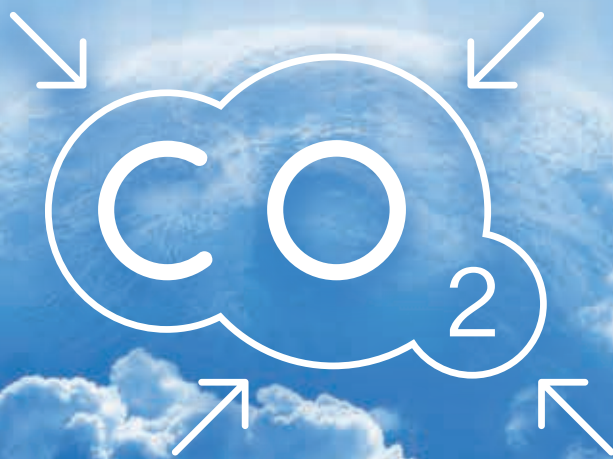
公共建築工事標準仕様書Y-1・Y-2 適合
日本建築学会JASS 8 L-GI・L-GU 適合

環境品質



E-TEC 株式会社 **イーテック**

長年培った環境品質が更に進化(地球のためにできること)
人と環境を考え、安全、安心、CO₂・VOC排出削減を考え、
環境対応型改質(ゴム)アスファルト防水
速硬化ハルエースコートONEをご提案します。



防水施工時

イーテック製品の特長

安全性

イーテック製品の最大の特長は、火や溶剤を使わない水系(エマルジョン)のため、煙や臭気による問題の発生が少なく、作業時の火災や中毒の心配もないことです。独自の技術を展開し、より安全で扱いやすい防水材料を、業界に先駆けて開発しています。

防水性

イーテック製品はすべて、優れた防水性能を発揮すべく設計されています。常に技術開発を重視し、さまざまな用途や適用部位で使われる製品群を生み出してきた幅広いノウハウと50年以上の施工実績が、その信頼性をしっかり支えています。

環境への優しさ

環境への配慮が厳しく求められる昨今、イーテック製品はエコロジーの発想で環境に配慮した製品を提供しています。火を使わないため、温室効果ガスの削減が図られ、また臭気の発生も少なく、現場環境、近隣環境の負荷低減につながります。

省力化

独自に開発した硬化システムで、これまでの改質アスファルト系塗膜防水材料に比べ、硬化スピードをアップさせたことで硬化・養生時間を短縮し、防水工事の工期短縮を可能としました。

速硬化ハルエースコート ONEの特長

1 硬化スピードをさらにアップさせ工期短縮を可能としました。

規模に応じて1日で上塗りまで施工可能*

工法	概要	工期短縮										
		1日			2日			3日			4日	5日
速硬化 ハルエースコートONE ONE-40工法	施工：1日 養生：1日	プライマー 養生	工程 ②	工程 ③	養生			水張り試験				
改質(ゴム)アスファルト系 塗膜防水 (従来品)	施工：2日 養生：2日	プライマー 養生	工程②		工程③			養生			養生	水張り試験
熱アスファルト防水	施工：2日 養生：0日	プライマー 養生		工程 ②	工程 ③	工程 ④	工程 ⑤	工程 ⑥	工程 ⑦	水張り試験		

*面積や作業人員、施工環境により異なります。

2 安全性を高めた、臭気の少ないエマルジョン防水工法です。

当社の永年のゴムアスファルト技術を活かした、環境にやさしいエマルジョン系の塗膜防水工法です。

完全冷工法で施工できる改質(ゴム)アスファルト防水材のため、臭気はもちろん、煙や火災の心配がありません。

3 室内押さえ・地下外壁の用途に特に威力を発揮します。

短い工期や高い安全性により、これまでは施工が困難だった場所の防水工事に強みを発揮します。特に、狭い・複雑・密閉された空間といった環境条件をもつ、室内・地下外壁の用途に特に威力を発揮します。

4 確かな信頼性。

速硬化ハルエースコートONEは、JIS A 6021を取得しており、公共建築工事標準仕様(Y-1・Y-2仕様)として適合します。



適用部位	仕様No.	掲載頁
室内	密着	ONE-25 P.3
	密着	ONE-40 P.3
屋根防水	密着	ONE-25 P.4
	密着	ONE-40 P.4
	絶縁	ONEZ-40 P.5
公共建築工事標準仕様 (Y仕様)	密着	ONE-61(Y-1) P.6
	密着	ONE-40(Y-2) P.7
地下	密着	ONE-20 P.8
	密着	ONE-61 P.8

【イーテックの環境方針】

- 株式会社 イーテックは、粘着材、接着剤、コート材、防水材、並びに合成エマルジョンの研究、製造、製品及びサービスの事業活動が、環境に影響する可能性がある事を認識し、地域社会、顧客、従業員及び株式会社 イーテックのために働く全ての人に、環境・安全を確保し、社会との共存共栄を図る。
- 環境関連法令の要求事項及び、株式会社 イーテックが同意するその他の要求事項を順守する。
- 環境に対する影響を継続的に改善し、環境汚染の回避・低減に努める。
- 環境マネジメントシステムを確立し、実行し、継続して改善する。
- 株式会社 イーテックの環境側面を考慮して、下記の項目に関する環境目的及び目標を設定し、改善活動を実施するとともに、年に1度環境方針とともに見直す。
 - 臭気の発生を低減する。
 - エネルギー、資源の使用の合理化を推進する。
 - 製品の環境に与える影響の緩和に努める。
 - 廃棄物を削減する。
- 株式会社 イーテックで働く全ての人々が、環境方針の考えかたを認識し、方針に沿った行動を行うように周知化する。
- 環境方針は、社外からの要求、その他必要に応じ公表する。



ISO9001:2015 適合証明証・付属書
株式会社イーテック全社



ISO14001:2015 適合証明証・付属書
株式会社イーテック四日市工場

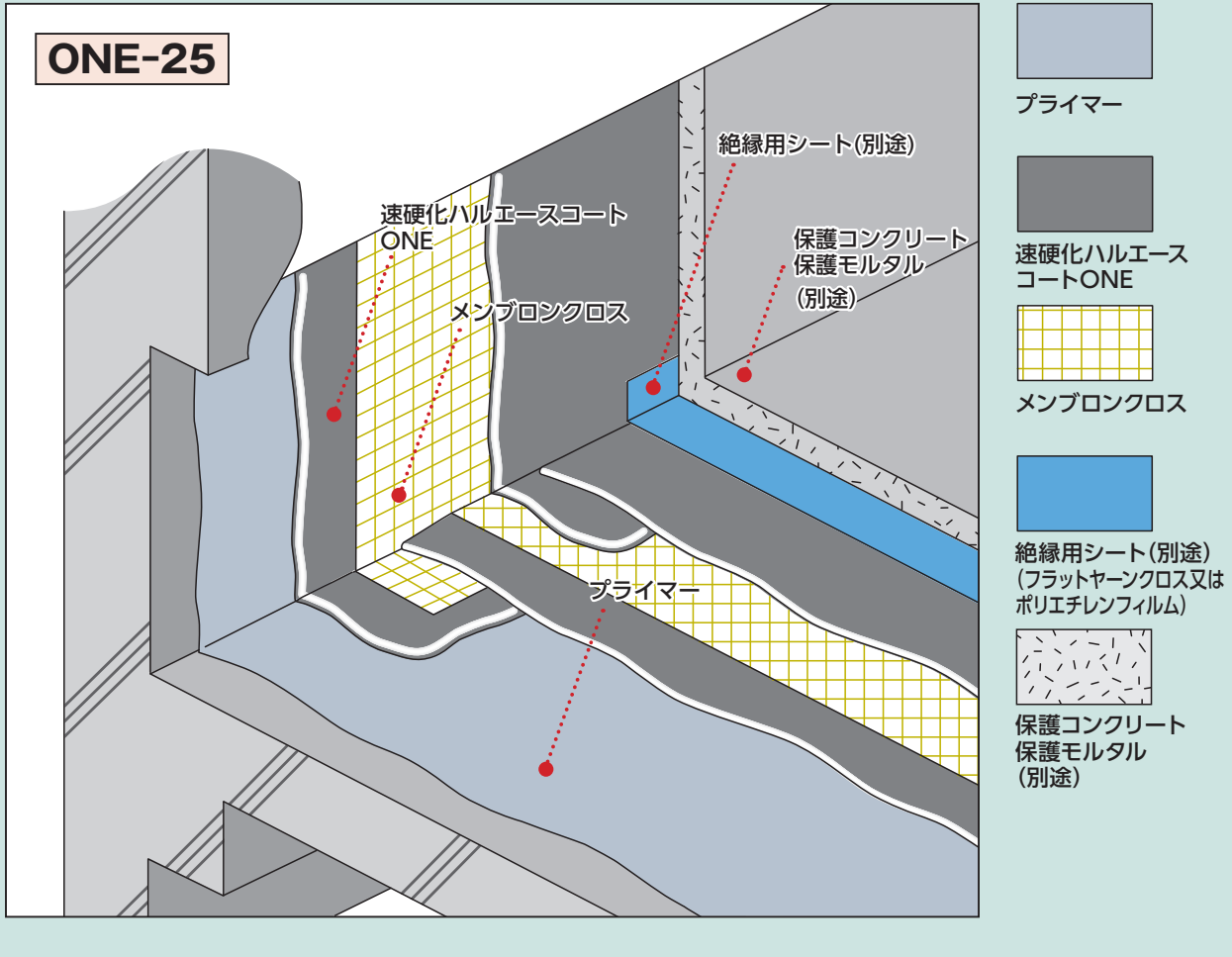


日本産業規格表示
株式会社イーテック四日市工場

室内

適用箇所：便所・浴室・厨房・駐車場・トレンチピット・OAフロア等

改質アスファルト塗膜工法(密着)



ONE-25

ONE-40

標準仕様

(単位・kg/m²)

工法	仕様No.	1	2	3	4
密着	ONE-25	プライマー 0.2	速硬化 ハルエースコートONE 1.5 ／メンブロンクロス	速硬化 ハルエースコートONE 1.0	保護層 (別途)
密着	ONE-40	プライマー 0.2	速硬化 ハルエースコートONE 2.0 ／ハルPCマット	速硬化 ハルエースコートONE 1.3	保護層 (別途)

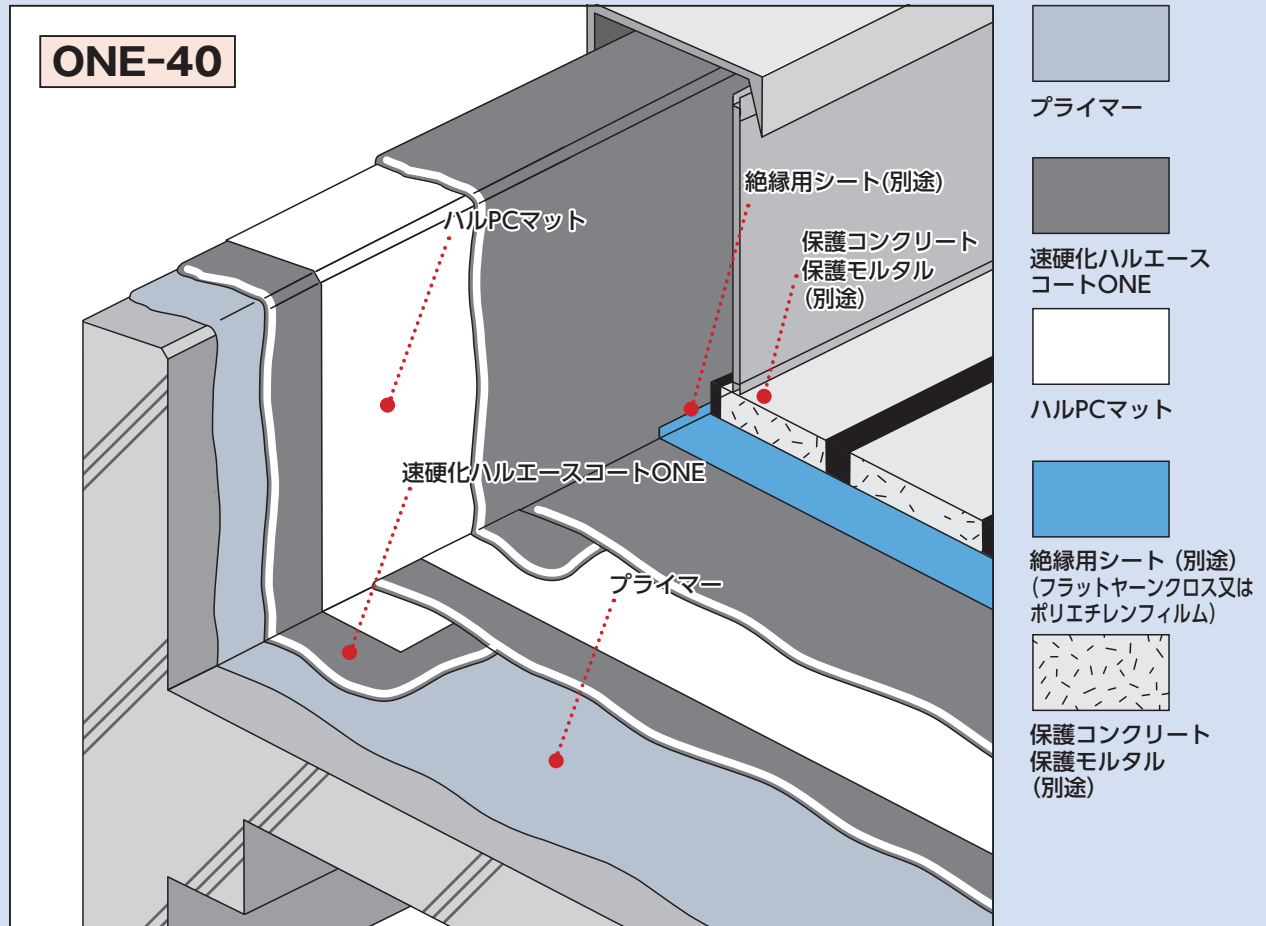
・ONE-40は、弊社推奨仕様です。

- プライマーは下地の状況に応じて使い分け、当日施工を行う部分のみ塗布してください。
- メンブロンクロス／ハルPCマットの重ね幅は50mm以上とする。
- 納まりが複雑な場合は、ハルPCマットの代わりにメンブロンクロスを使用してください。
- 出入隅・ドレン・配管等は必要に応じメンブロンクロスにて補強処理を行ってください。
- 絶縁用シートは小面積（1辺の長さが10m程度以下）の場合、現場協議の上割愛することが出来ます。
- トレンチピット等 ONE-20工法で施工の場合もあります。

屋根防水

適用箇所; 屋根・ベランダ・バルコニー・開放廊下・庇等

改質アスファルト塗膜工法(密着)



標準仕様

(単位・kg/m²)

工法	仕様No.	1	2	3	4
密着	ONE-25	プライマー 0.2	速硬化 ハルエースコートONE 1.5 /メンブロンクロス	速硬化 ハルエースコートONE 1.0	保護層 (別途)
密着	ONE-40	プライマー 0.2	速硬化 ハルエースコートONE 2.0 /ハルPCマット	速硬化 ハルエースコートONE 1.3	保護層 (別途)

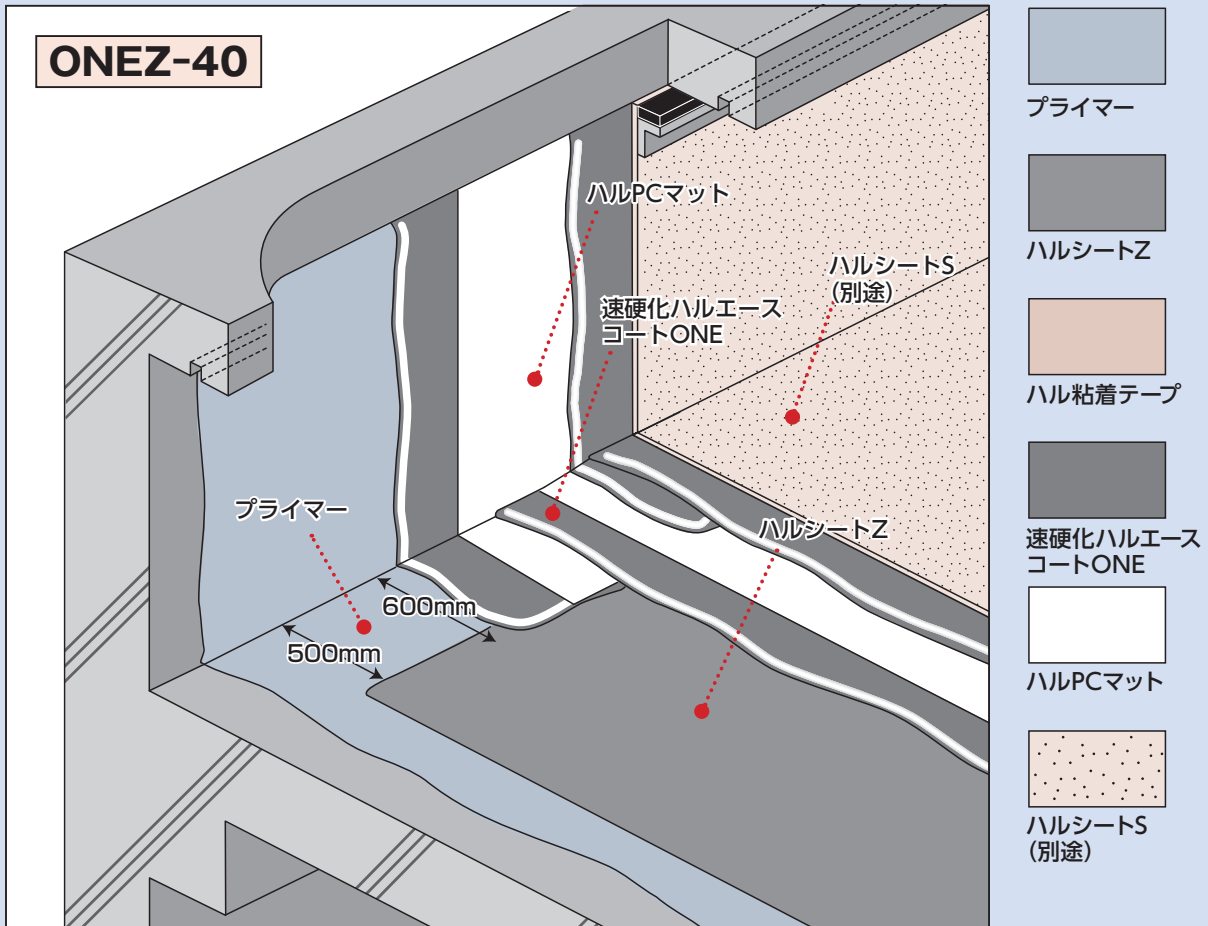
・ONE-40は、弊社推奨仕様です。

- プライマーは下地の状況に応じて使い分け、当日施工を行う部分のみ塗布してください。
(プライマー塗布後、降雨にあたった場合は再塗布してください。)
- メンブロンクロス/ハルPCマットの重ね幅は50mm以上とする。
- 納まりが複雑な場合は、ハルPCマットの代わりにメンブロンクロスを使用してください。
- 出入隅・ドレン・配管等は必要に応じメンブロンクロスにて補強処理を行ってください。
- トップコート仕上も可能です。
- トップコート仕上の場合は、上塗り速硬化ハルエースコートONEの十分な養生後に、2回塗布してください。

屋根防水

適用箇所：屋根・庇等

改質アスファルト塗膜工法(絶縁)



ONEZ-40

標準仕様

(単位・kg/m²)

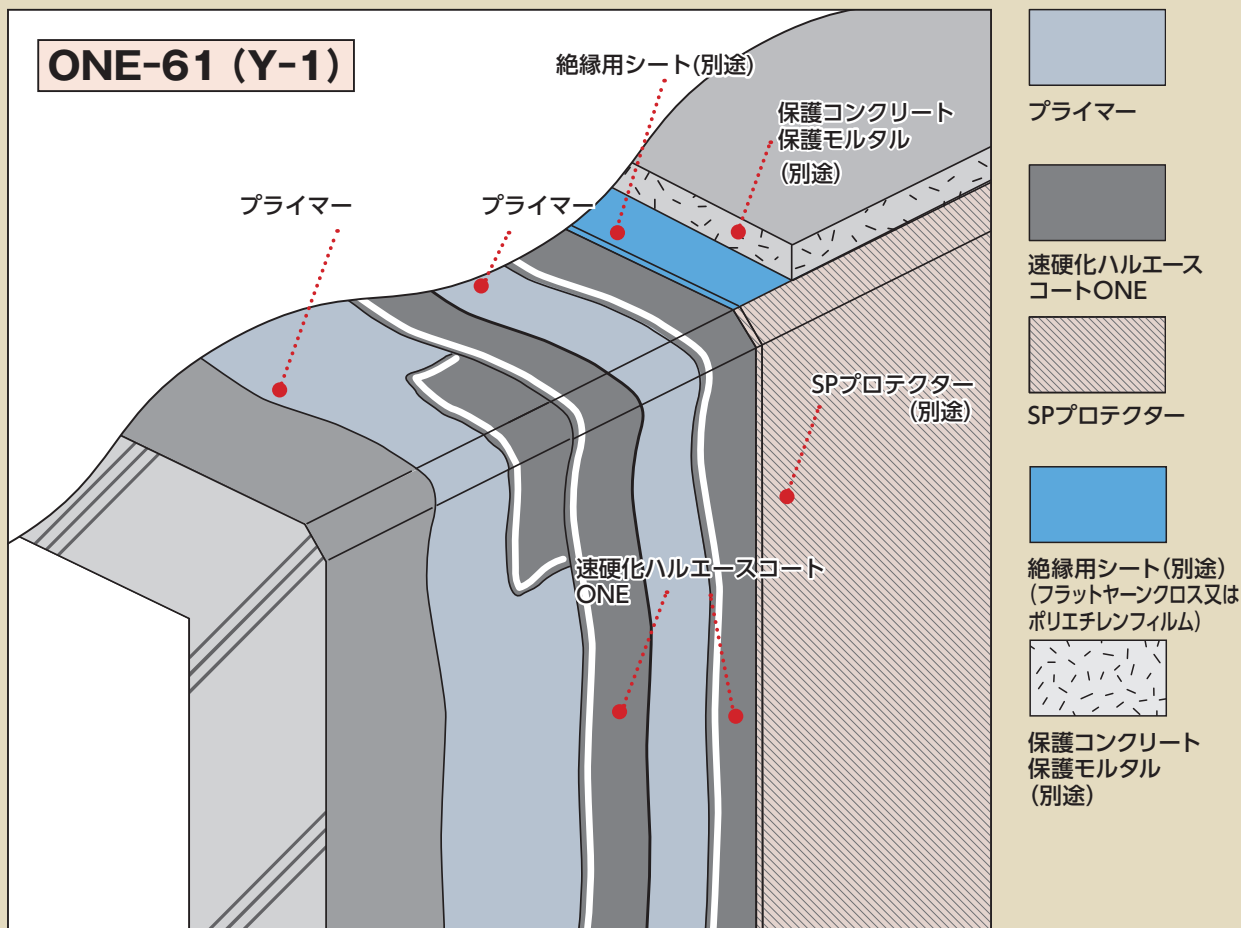
工法	仕様No.	1	2	3	4	5	
絶縁	ONEZ-40	平場	プライマー 0.2	ハルシートZ	速硬化 ハルエースコートONE 2.0 ／ハルPCマット	速硬化 ハルエースコートONE 1.3	保護層 (別途)
		立上り	プライマー 0.2	速硬化 ハルエースコートONE 2.0 ／ハルPCマット	速硬化 ハルエースコートONE 1.3	保護層 (別途)	

- プライマーは下地の状況に応じて使い分け、当日施工を行う部分のみ塗布してください。
(プライマー塗布後、降雨にあたった場合は再塗布してください。)
- ハルシートZの長手方向の重ね幅は100mm以上とする。
- ハルシートZの幅方向は突付けとし、ハル粘着テープで処理してください。
- ハルPCマットの重ね幅は50mm以上とする。
- 出入隅・ドレン・配管等は必要に応じメンブロンクロスにて補強処理を行ってください。
- 保護層はトップコート又はハルシートSを使用してください。
- トップコート仕上は、上塗り速硬化ハルエースコートONEの十分な養生後に、2回塗布してください。
- ハルシートSの重ね幅は100mm以上とし、ハルシートSの立上り端部は金物で固定する。

公共建築工事標準仕様(Y仕様)

国土交通省・防衛省・文部科学省・他
日本建築学会 JASS 8 L-GU

ゴムアスファルト系塗膜工法(地下外壁)



ONE-61 (Y-1)

標準仕様

工法	仕様No.	1	2	3	4
密着	ONE-61 (Y-1)	プライマー 0.2	速硬化 ハルエースコートONE 2.6	速硬化 ハルエースコートONE 2.5	保護層 SPプロテクター (別途)

- ・塗り回数は、主材料の製造所の仕様による。(標準仕様書 令和4年度版より引用)
 - ・翌日以降に速硬化ハルエースコートONEの2回目を塗布する場合は層間プライマーを塗布してください。プライマーの選定はお問い合わせください。
 - ・工程の塗布量については変動が可能ですが計5.1kg/m²塗布願います。
- Y-1は地下外壁に適用。

- プライマーは下地の状況に応じて使い分け、当日施工を行う部分のみ塗布してください。(プライマー塗布後、降雨にあたった場合は再塗布してください。)
- コンクリート打継ぎ部及び著しいひび割れ箇所等で防水上不具合のある下地はU字型にハツリ、シーリング材(ノンブリードのウレタン系)を充填した上、幅100mm程度の補強布(メンブロンクロス)を用い補強塗りを行ってください。
- 打継ぎ部は幅100mm以上の補強布(メンブロンクロス)、出入隅部分は、補強塗りまたは、幅200mm程度の補強布(メンブロンクロス)を用いて補強塗りを行ってください。なお、種別Y-1の補強塗りは、補強布を省略することが出来る。
- 現場状況によって、1回で塗布する事も可能です。
- SPプロテクターは、防水層の硬化乾燥を確認後設置してください。設置には、ハイタックG(0.2kg/m²)を使用してください。(SPプロテクターの設置には、防水層施工後、1日以上養生が必要です。また、SPプロテクターは、防水層の面にハイタックGを塗布し、乾燥後、ポリエチレン発泡体側が防水層の面にくるよう設置してください。)
- 直射日光を受ける施工範囲には、フクレ防止のためハル水性プライマー5倍希釈液塗布後、AEコートフクレ抑制施工を推奨します。

理論膜厚計算方法

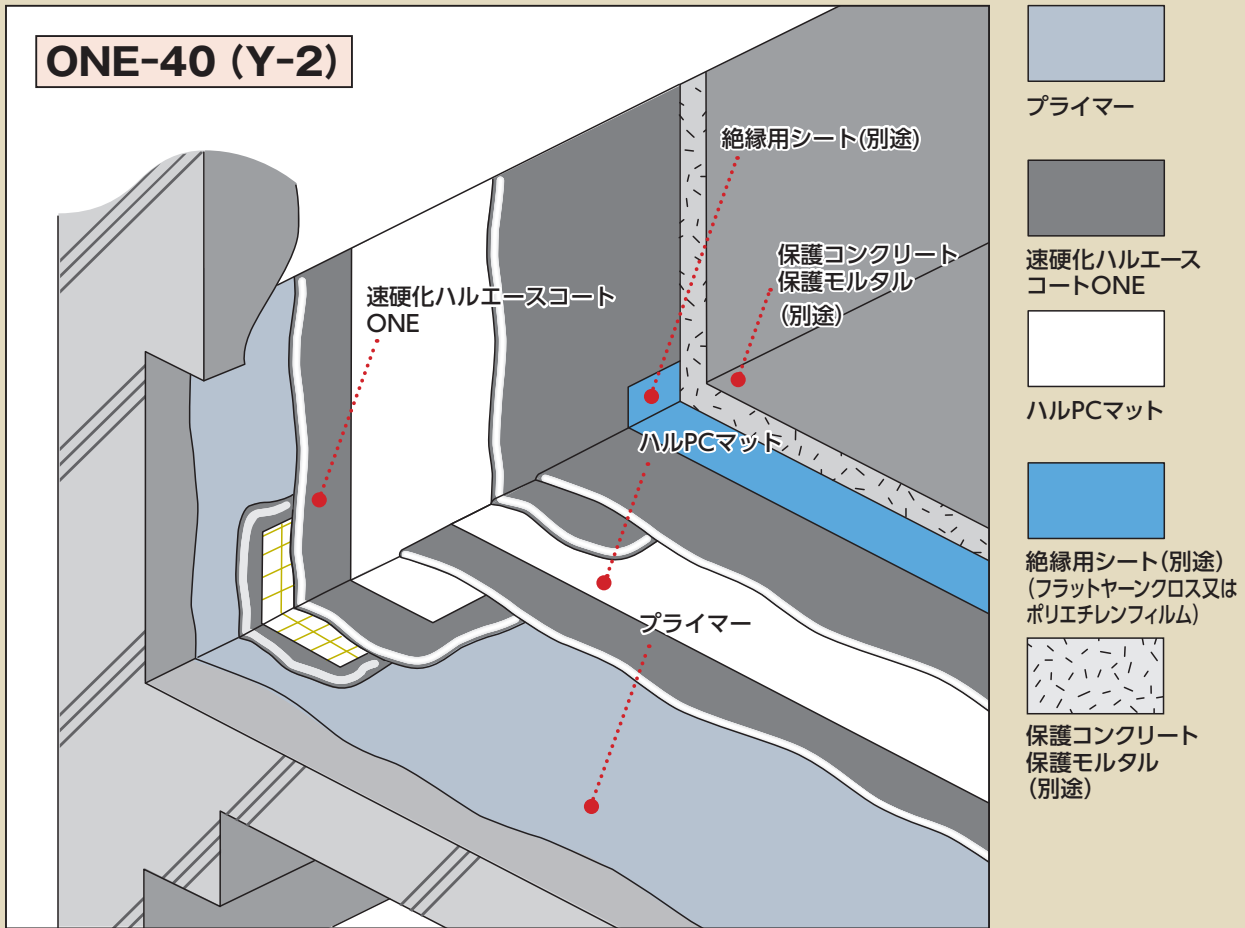
標準仕様書Y-1 : 7.0kg/m² × 60% = 4.2mm

ONE-61 : 5.1kg/m² × 83% = 4.2mm

公共建築工事標準仕様(Y仕様)

国土交通省・防衛省・文部科学省・他
日本建築学会 JASS 8 L-GI

ゴムアスファルト系塗膜工法(屋内)



ONE-40 (Y-2)

標準仕様

(単位・kg/m²)

工法	仕様No.	1	補強処理	2	3	4
密着	ONE-40 (Y-2)	プライマー 0.2	速硬化 ハルエースコートONE 1.0 /メンブロンクロス	速硬化 ハルエースコートONE 2.0 /ハルPCマット	速硬化 ハルエースコートONE 1.3	保護層 (別途)

・塗り回数は、主材料の製造所の仕様による。(標準仕様書 令和4年度版より引用)
Y-2は、室内防水に適用。

- ハルPCマットの重ね幅は50mm以上とする。
- プライマーは下地の状況に応じて使い分け、当日施工を行う部分のみ塗布してください。
- 納まりが複雑な場合は、ハルPCマットの代わりにメンブロンクロスを使用してください。
- 出隅及び入隅は、幅100mm以上の補強布(メンブロンクロス)を用いて補強塗りを行ってください。
- 絶縁用シートは小面積(1辺の長さが1.0m程度以下)の場合、現場協議の上割愛することができます。

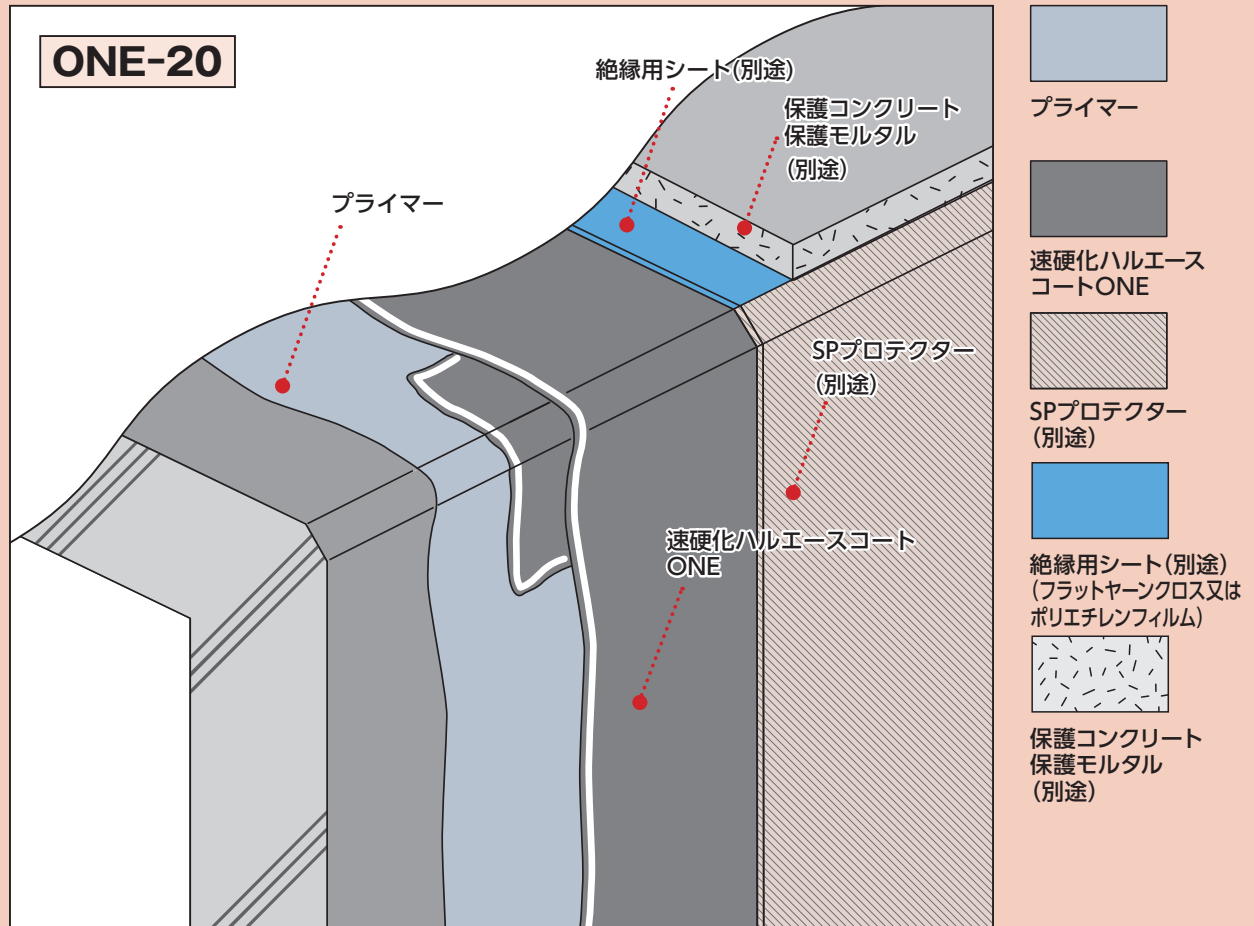
理論膜厚計算方法	標準仕様書Y-2 : 4.5kg/m ² × 60% = 2.7mm	ONE-40 : 3.3kg/m ² × 83% = 2.7mm
----------	---	---

固形分換算について 標準仕様書ではゴムアスファルトの固形分は60%となっており、「固形分がこれ以外の場合は所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する」とあります。塗布型の速硬化ハルエースコートONEは固形分83%であり、上記使用量で同じ膜厚を確保することができます。

地 下

適用箇所：地下外壁・低床・上床等

改質アスファルト塗膜工法(密着)



ONE-20




ONE-61

標準仕様

工法	仕様No.	1	2	3	4
密着	ONE-20	プライマー 0.2	速硬化 ハルエースコートONE 2.5	保護層 SPプロテクター (別途)	
密着	ONE-61	プライマー 0.2	速硬化 ハルエースコートONE 2.6	速硬化 ハルエースコートONE 2.5	保護層 SPプロテクター (別途)


- ONE-61は、弊社推奨仕様です。
- 翌日以降に速硬化ハルエースコートONEの2回目を塗布する場合は層間プライマーを塗布してください。プライマーの選定はお問い合わせください。
- ONE-61仕様の塗布量については変動が可能ですが計5.1kg/㎡塗布願います。

- プライマーは下地の状況に応じて使い分け、当日施工を行う部分のみ塗布してください。(プライマー塗布後、降雨にあたった場合は再塗布してください。)
- コンクリート打継ぎ部及び著しいひび割れ箇所等で防水上不具合のある下地はU字型にハツリ、シーリング材(ノンブリードのウレタン系)を充填した上、幅100mm程度の補強布(メンブロンクロス)を用い補強塗りを行ってください。
- 打継ぎ部は幅100mm以上の補強布(メンブロンクロス)、出入隅部分は、補強塗りまたは、幅200mm程度の補強布(メンブロンクロス)を用いて補強塗りを行ってください。(補強処理部分は、接着力を向上させる為、ハル水性プライマーまたは特殊プライマーSTを塗布してください。)
- 規定の塗布量を確保出来なかった場合は、硬化乾燥後に、ハル水性プライマーまたは特殊プライマーST(0.1kg/㎡)を塗布し、乾燥後に増し塗りを行ってください。
- SPプロテクターは、防水層の硬化乾燥を確認後設置してください。設置には、ハイタックG(0.2kg/㎡)を使用してください。(SPプロテクターの設置には、防水層施工後、1日以上養生が必要です。また、SPプロテクターは、防水層の面にハイタックGを塗布し、乾燥後、ポリエチレン発泡体側が防水層の面にくるよう設置してください。)
- 直射日光を受ける施工範囲には、フクレ防止のためハル水性プライマー5倍希釈液塗布後、AEコートフクレ抑制施工を推奨します。
- 先やり工法としても使用出来ます。(導水用シートとしてSPベースシートを使用してください。)

商品写真	主材料		増粘剤
	速硬化ハルエースコートONE	速硬化ONE硬化剤	ハルコート増粘剤S
			
一般性状	防水材主剤 ゴムアスファルト系エマルジョン 固形分:83% 比重:1.0 PH:11.0 外観:黒褐色液体	硬化剤 ポリイソシアネート系化合物 比重:1.1 第四類第4石油類 外観:茶褐色液体	ポリアクリル酸ナトリウム 粘度:4,500mPa・s PH:11.9 外観:淡黄色液体
荷姿	17kg/缶	0.25kg×4缶/箱	5kg/缶

商品写真	プライマー				補強布	
	ハルeプライマー	ハル水性プライマー	特殊プライマーST	AEコートSB	ハルPCマット1000	メンブロンクロス
						
主成分	アクリル エマルジョン系	アクリル エマルジョン系	溶剤合成ゴム系	骨材入り 特殊セメント	ポリエステル スパンボンド	合成繊維メッシュ
荷姿	18kg/缶	5kg/缶	3kg/缶	24kg/袋	直径210mm 1m×100m/巻 (7kg/巻)	直径125mm 1m×50m/巻 (3kg/巻) 200mm×50m×5巻
用途	各種下地に適用する。適用表はP11参照。				塗膜防水材と一体化することにより、強靱な防水層を形成すると共に、膜厚の確保を図る。	

※「適用プライマー」「AEコートフレ抑制の混合方法」はP10をご参照ください。

商品写真	ゴムアスファルト系シート		埋め戻し保護材	副資材		
	ハルシートZ	ハルシートS	SPプロテクター	ハイタックG	ハル粘着テープ	絶縁クロス
						
主成分	改質アスファルト ルーフィングシート (通気絶縁用・部分 粘着型)	改質アスファルト ルーフィングシート (片面砂付型)	補強クロス付き ポリエチレン 発泡体	アクリル エマルジョン系 接着剤	ゴム アスファルト系 粘着テープ	フラットヤーン クロス
荷姿	直径220mm 1m×16m/巻 (31kg/巻)	直径200mm 1m×8m/巻 t=3.0mm (31kg/巻)	直径450mm 1m×25m/巻 t=6.0mm (8kg/巻)	17kg/缶	200mm×20m ×6巻/箱	直径135mm 1.32m×100m /巻 (12kg/巻)
用途	下地亀裂抵抗性の アップと防水層の フレ防止の為、下 地と防水層を絶縁 する下張り緩衝材	露出砂付き仕上げ用。 立上り露出保護用。	地下外壁 埋め戻し時の 保護緩衝マット	絶縁用シート(ポリ エチレンフィルム、フ ラットヤーンクロス) SPプロテクター 用接着剤。	自着層付きの 粘着テープ。	保護コンクリートと 縁をきる繊維クロス

施工手順例



- 1 下地
- 2 プライマーの塗布
- 3 攪拌機(リシン羽根)
- 4 速硬化ハルエースコート ONEの混合
- 5 ハルPCマットの流し張り
- 6 上塗り速硬化ハルエースコートONEの塗布
- 7 保護層の施工

商品写真	仕上げ材			
	JLCToppFS	JLCToppFS(遮熱色)	AEコートAG	JLCToppF
主成分	アクリルエマルジョン系塗料 (骨材入り)	アクリルエマルジョン系 (骨材入り遮熱色)	ポリマーセメント系 塗膜防水材料(アクリル系)	アクリルエマルジョン系塗料
荷姿	18kg/缶	18kg/缶	(主剤) AEコートAG 18kg/缶 (硬化剤) AEコートB 18kg/袋	15kg/缶
色	シルバー グレー グリーン 受注生産	パール グレー ライトグリーン 受注生産	ダークグレー	シルバー グレー グリーン 受注生産

仕上げ材の標準色は印刷物のため現物と多少異なる場合があります。
JLCToppは材料に分離等があるので、均一になるよう事前によく攪拌してください。

保護・仕上げ塗料

1) 標準仕上げ(TS)

工程	JLCToppFS仕上げ(骨材入り)	使用量(m ² 当たり)
1	JLCToppFS	0.4kg
2	JLCToppFS	0.4kg

2) 複層仕上げ(AT/ATS/ATV)

工程	AEコートAG/トップ仕上げ	使用量(m ² 当たり)
1	AEコートAG	0.7kg
2	JLCToppF 又は JLCToppFS 又は JLCToppFS(遮熱色)	0.3kg 0.4kg 0.4kg

3) 仕上げ(T)

工程	JLCToppF仕上げ	使用量(m ² 当たり)
1	JLCToppF	0.25kg
2	JLCToppF	0.25kg

4) 砂付きシート仕上げ(S)

工程	工程1
ハルシートS仕上げ(S)	粘着層による貼付け

※トップコート塗布時には、上塗り速硬化ハルエースコートONEの養生が必要です。
※トップコートは、3~5年毎に塗替えが必要です。複層仕上げの場合でも、必要に応じて塗替えを実施してください。
※押え保護層では、別途コンクリートまたはモルタル保護層を打設してください。

適用プライマー

適用下地	プライマーの種類	配合	使用量	標準乾燥時間*1	上塗り可能時間*2
コンクリート・モルタル の屋外日光直射面 (密着工法フクレ抑制用)	AEコートフクレ抑制	AEコートSG:AEコートSB =18:18	1.0kg/m ²	30分~1時間	当日内
コンクリート モルタル 既存ルーフィングシート 等	水性 ハルプライマー (5倍希釈)	ハルプライマー原液:水 =18:72 (1:4)	0.2kg/m ²	30分~1時間	当日内
	水性 ハル水性プライマー (5倍希釈)	ハル水性プライマー原液:水 =5:20 (1:4)	0.2kg/m ²	1時間	当日内
アスファルトコンパウン ド塗り継ぎ 鋳鉄製ドレン 同材塗り継ぎ	水性 ハルプライマー (原液) *屋外の場合はハル水性プライマーまたは 特殊プライマーSTを使用してください	—	0.2kg/m ²	30分~1時間	当日内
	水性 ハル水性プライマー (原液)	—	0.2kg/m ²	1時間	当日内
ステンレス アルミ 塩ビ管	溶剤 特殊プライマーST (原液)	—	0.1kg/m ²	10~20分	当日内
	水性 ハル水性プライマー (原液)	—	0.1kg/m ²	1時間	当日内
	溶剤 特殊プライマーST (原液)	—	0.1kg/m ²	10~20分	当日内

*1: 乾燥時間の目安であり、温湿度条件は23℃ 50% RH。低温や高湿状態では上記時間内で乾燥しない場合もあるため送風機等で乾燥促進願います。
*2: プライマーが乾燥してから次工程を行うことが出来る時間。
*3: AEコートフクレ抑制の施工時は事前にハル水性プライマー5倍希釈液を塗布してください。
○その他の下地については、メーカーへご相談ください。○その他適用下地例であっても、別途下地処理が必要な場合があります。○鋳鉄製ドレン・ステンレス・アルミ・塩ビ管等はプライマー塗布前に目粗しをしてください。○ステンレスの場合は、目粗し後、迅速に塗布し施工してください。○鋳造SUS(SCS)下地に関しては、特殊プライマーSTを0.1kg/m²×2回塗布してください。(ハル水性プライマーを使用する場合は、0.1kg/m²×1回塗布してください。)

AEコートフクレ抑制混合方法



プライマー塗布



AEコート計量



AEコートSG,SB攪拌



AEコート塗布



乾燥後

【配合割合・配合時の注意事項】

一般用・平場用配合	立上り用配合	注意事項
<ul style="list-style-type: none"> 「速硬化ハルエースコートONE(1缶17kg)」と「速硬化ONE硬化剤(1缶250g)または(2缶500g)」を使用直前に攪拌機で約20秒間均一に攪拌してください。(標準配合) 	<ul style="list-style-type: none"> 「速硬化ハルエースコートONE(1缶17kg)」と「速硬化ONE硬化剤(1缶250g)または(2缶500g)」を攪拌機で約10秒間均一に攪拌後、ハルコート増粘剤Sを添加し攪拌機で約20秒攪拌してください。 増粘剤の添加量は17kgに対して100g~300gが基本ですが、施工環境に応じて添加量の調整が必要です。 低温環境下においては、主剤1缶に対してハルコート増粘剤Sの添加量は200gを上限とさせていただき、併せて分散性向上の為、半缶での混合攪拌を推奨します。 	<ul style="list-style-type: none"> 速硬化ハルエースコートONE主剤開封後、約10秒間攪拌願います。 攪拌機は、1,300rpm以上の高速攪拌機で羽根の形状がリシン羽根のものを使用してください。 主剤・硬化剤は約20秒程度で十分に混合します。必要以上に長く攪拌をすると材料が不安定化することがあります。 主剤・硬化剤の攪拌が不十分な場合、硬化不良が発生することがあります。 可使時間内に使い切るようにしてください

温度別硬化時間

硬化剤配合	主剤1缶に対する配合割合	液温	可使時間	歩行可能時間	水張り可能時間	注意
速硬化ONE硬化剤 (標準配合)	1缶(250g)	15°C	100分	3時間	24時間	<ul style="list-style-type: none"> ○塗布量2.0kg/m²、湿度50%の条件下での時間です。 ○標準配合での時間で、増粘剤併用の場合には、左記可使時間より短くなります。 ○歩行可能時間は次工程に移る目安時間です。防水性能を発揮する時間ではありません。 ○密閉された室内や高温状態の箇所では、記載の「歩行可能時間」及び「水張り可能時間」以上の時間を要する場合があります。送風機等により空気循環させ乾燥を促進させてください。又、結露水が発生する場合は除湿機等を併用してください。
		23°C	50分	3時間		
		35°C	25分	3時間		
速硬化ONE硬化剤 (冬季配合)	2缶(500g)	5°C	70分	3時間		
		15°C	30分	3時間		
		23°C	—	3時間		

技術データ

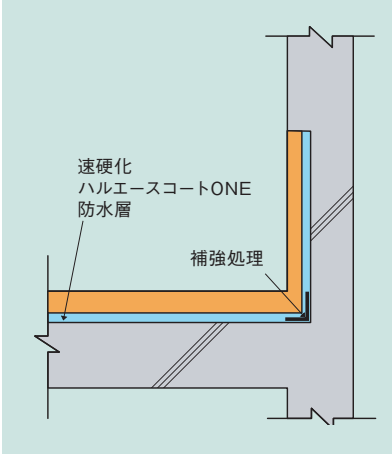
●JIS A6021に基づく塗膜物性データ



評価項目		硬化剤1缶(250g)	硬化剤2缶(500g)	JIS A6021 規格	
塗膜性能		塗膜:2mm			
引張性能	引張り強さ (N/mm ²)	0.43	0.43	0.25以上	
	破断時の伸び率 (%)	1900以上	1900以上	600以上	
引裂性能	引裂き強さ (N/mm)	4.81	4.79	2.0以上	
温度依存性	-20°C	引張り強さ (N/mm ²)	3.63	3.54	0.25以上
		破断時のつかみ間の伸び率 (%)	1000以上	1000以上	360以上
	23°C	破断時のつかみ間の伸び率 (%)	90以上	90以上	70以上
	60°C	破断時のつかみ間の伸び率 (%)	400以上	400以上	360以上
劣化処理後の引張性能	加熱処理	引張り強さ比 (%)	132	133	80以上
	アルカリ処理		110	117	80以上
	加熱処理	破断時の伸び率 (%)	1900以上	1900以上	480以上
	アルカリ処理		1900以上	1900以上	480以上
加熱伸縮性状	伸縮率 (%)	0.07	0.13	-4.0以上1.0以下	
伸び時劣化性状	加熱処理	変形なし	変形なし	変形なし	
下地との接着性	コンクリート	ハルプライマー5倍希釈品	0.66N/mm ² (防水材凝集破壊)	0.67N/mm ² (防水材凝集破壊)	—

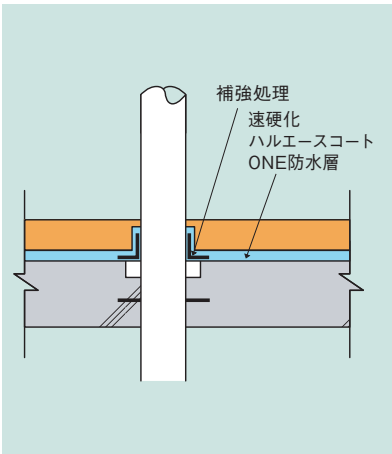
室内防水

●浴室・厨房の例※



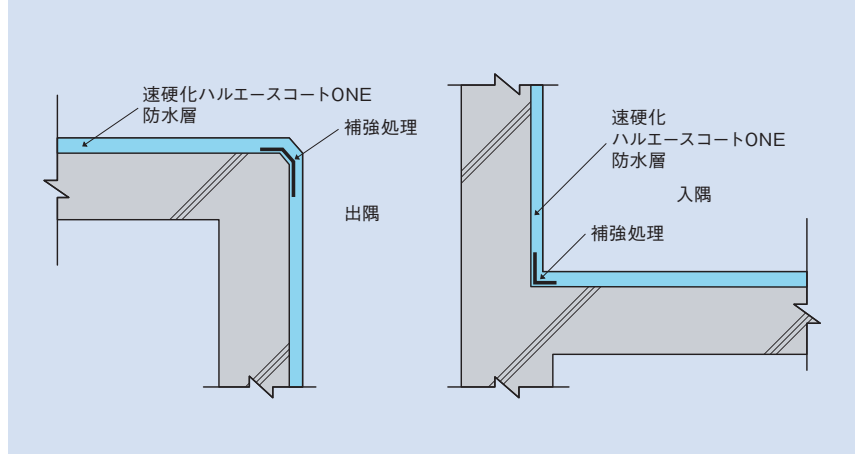
※必要に応じて補強処理を行う。

●貫通パイプの例



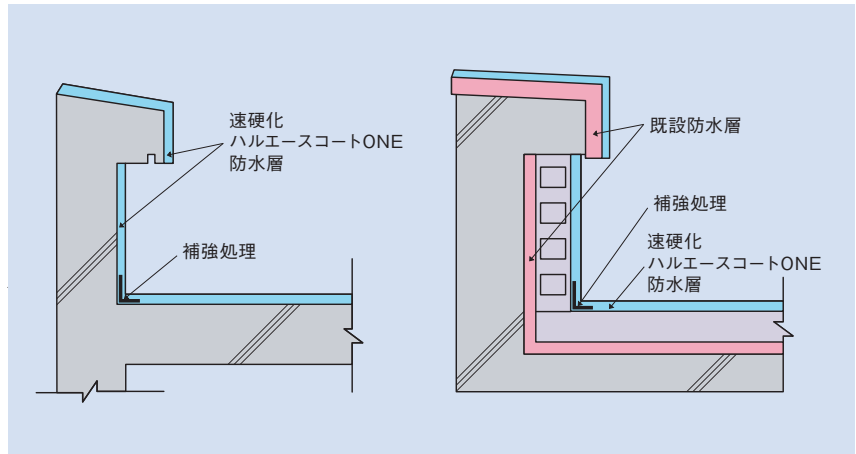
屋根防水

●コーナー部の例※

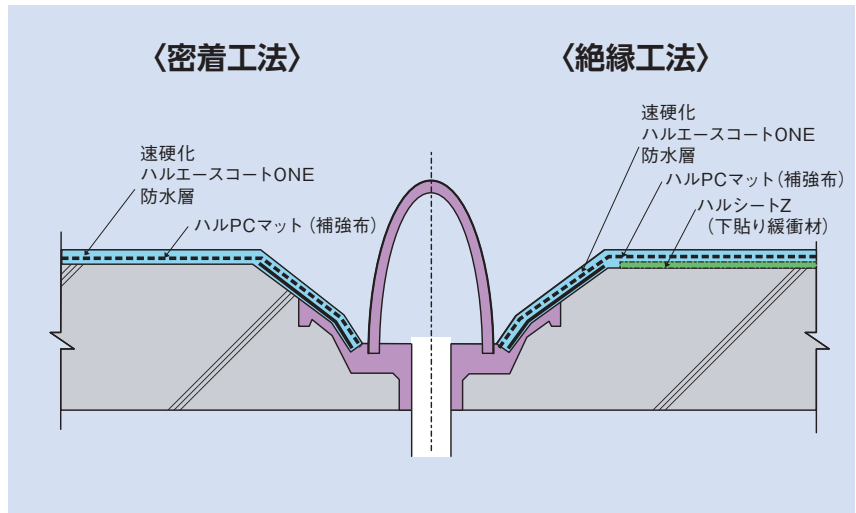


※必要に応じて補強処理を行う。

●パラペット部



●ドレン部



注 意 点

■保管・運搬上の注意

▲ 注 意

- 速硬化ハルエースコートONE防水工法に使用する主剤および副資材は重量物ですので、荷扱いには十分ご注意ください。落下や乱暴な取り扱い、缶・シートの傷つきだけでなく、傷害や器物破損などの事故を招く場合があります。
- 速硬化ONE硬化剤は危険物第4類第4石油類、特殊プライマーSTは第4類第1石油類に該当します。保管にあたっては消防法の指定数量（第4類第4石油類：6000L、第4類第1石油類 非水溶性液体：200L）が規定されていますが、各市町村により条例が異なりますのでご確認ください。

■施工上の注意

▲ 注 意

- 施工中および施工後塗膜が硬化するまでは、他業者による汚損、事故の発生を防ぐために、工事関係者以外の立ち入りを禁止してください。立ち入り禁止の立て札を用意し、わかりやすい所に立ててください。
- 使用済み缶類、残材シート等は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。梱包紙・梱包ケースなどを焼却する場合は、都道府県条例に基づき焼却してください。

● 保管上のお願

- 速硬化ハルエースコートONE・プライマー・トップコートは、凍結させないよう注意し、5～40℃で直射日光の当たらない室内に保管してください。開缶後の使用残は密封した状態で保管してください。施工現場でやむを得ず野積みする場合には、必ずシートを掛けてください。
- ハルPCマット・メンブロンクロス・ハルシート類は、雨、水に濡れない室内に保管してください。やむを得ず屋外に保管する場合は、防水シート等で完全に覆って、雨に濡れないように注意してください。

● 施工上のお願

- 材料は使用前に攪拌機にて攪拌してください。
- 施工から硬化・乾燥までは5℃以上で行ってください。又、施工完了後は、降雨・降雪にあわないようにしてください。
- 採光が不足しないように十分な照明設備を設けてください。
- 密閉された室内や高湿状態の箇所では硬化・乾燥を良くする為、養生期間中は送風機等を使用してください。又結露水の発生がある場合は、除湿機等を併用してください。
- 水張りテストにあたっては、上塗り施工後、24時間以上の養生を取り、完全に防水層が硬化・乾燥していることを確認した後、水張りテストを実施してください。（結露水等の影響により24時間での完全硬化ができない場合もあります。）
- 屋外で施工間隔が2日以上あく場合は、塗り継ぎ部にハル水性プライマーまたは特殊プライマーSTを塗布してください。
- 立上り部は、立上りの高さ又は、表面仕上種類により処理が必要となります。ラス鋼入りモルタル仕上げの場合はラス類の立上り端末部を、防水層端末部よりも上部で金物を用い固定してください。
- トップコート仕上げの場合、雨水が滞留しやすい箇所に粉塵、泥、黄砂等が堆積し、乾燥収縮する事で生ずる表層クラック（マッドカーリング現象）が生じないように、適宜清掃を行ってください。

● 下地の確認と調整

- 下地の確認と調整
 - 下地の形状

下地コンクリートは、金ゴテ仕上げを原則とし、1/100以上の勾配であること。
 - 出入隅の形状

入隅：スラブの入隅及び入隅線は通りよく直角であること。
出隅：スラブの出隅及び出隅線は通りよく丸面（10R）または、3～5mm面がとってあること。
 - 下地の水分

下地の乾燥は、表面水及び湧水のないこと。但し、屋外施工で防水層にフクレが予想される部位では、乾燥状態が望ましい。
 - 取り付け機器の確認
 - ①ドレンの形状はツパつきであること。また強固に取り付けてあり、欠損のないこと。また、ドレンはコンクリート打設時に設置し、動きのないように固定する。ドレン周辺部に水溜りができない様、水はけ良く設置してあること。
 - ②貫通パイプ・衛生機器及び取付金具などは所定の位置に強固に取り付けてあり、欠損のないこと。
（床からの貫通パイプの設置は極力避ける。特に温水パイプは、スリーブ管を設置する。）
- 下地の調整
 - 2-1. 平滑性

下地の突起異物は、サンダー等で除去する。また不陸部や水溜り箇所は樹脂モルタルにて平滑に仕上げる。
 - 2-2. 浮き

下地に浮きのある場合はその箇所をハツリ、強固な下地面を出し、樹脂モルタルにて平滑に仕上げる。
 - 2-3. 清掃

表面のホコリやレイタンスなどの汚れ及び防水層の接着を阻害するような不純物（砂・油脂分・型枠脱型用離型剤等）がある場合は除去する。
- 地下外壁下地
 - ①木コン部は、樹脂モルタルにて充填する。
 - ②レイタンス・表面が脆弱な場合はサンダー・ケレン棒・金ブラシ等で除去し、強固な下地面を出し、樹脂モルタルにて処理する。
 - ③豆板・ジャンカなどは樹脂モルタルにてシゴキ塗りする。

● 施工上の注意

施工の前にカタログ・施工要領書等を必ずご一読ください。缶、梱包ケース、袋に記載されている品名・色名・ロット・数量・使用方法・注意書き・SDS等をご確認の上、施工を開始してください。

気象の条件

①硬化剤の選定

施工時の温度条件により、施工可能時間・歩行時間・水張り可能時間が変わります。よりスムーズな施工を行うために季節に合った配合を実施してください。

混合後の可使時間は、環境・温度条件によって異なりますので、P11の温度別硬化時間を目安に、施工環境に適した配合を選定し攪拌混合してください。

[使用目安表]

硬化剤	液温	配合
速硬化ONE硬化剤	15℃以上	1缶(250g)
	15℃未満	2缶(500g)

上記表は、あくまでも施工をスムーズに行うための目安表であり、上記表がすべてではありません。

②施工の中止

降雨・降雪時もしくは降雨・降雪が予想される場合は施工はさけてください。

気温5℃以下での施工はさけてください。

強風・高温・高湿の時は、関係者と協議の上、施工の可否を決定してください。

- * 下地条件（ピンホール・ジャンカ等）・施工環境（直射日光等）により、フクレを生じる可能性があります。フクレを軽減するには、下地補修及び遮光養生が効果的です。速硬化ハルエースコートONE施工前に、ハルプライマーペーストを塗布する、又は速硬化ハルエースコートONE塗布し、硬化乾燥後に、白色シート等で表面を覆い隠すことでフクレを軽減する効果があります。



イーテック YouTubeチャンネル



イーテック 商品カタログ



本パンフレットに記載されている情報およびデータは信頼し得る試験法に基づいて測定したものです。実際に使用する前に十分な試験を行い、ご満足いただける効果をご確認ください。なお、ご紹介の用途は、いかなる特許に対しても抵触しないことを保証するものではありません。
本パンフレットは予告なしに変更になる場合があります。

本社・四日市工場（工場、研究所）

〒510-0875 三重県四日市市大治田1-6-16

東日本防水材料グループ

〒105-0013 東京都港区浜松町1-10-14 住友東新橋ビル3号館

西日本防水材料グループ

〒541-0046 大阪府大阪市中央区平野町2-5-8 平野町センチュリービル

お問い合わせ TEL.03-6218-3842

お問い合わせ TEL.050-6868-4885